

教員名

田中 康仁

企画名

NS物流研究会

その他(課題解決提案型)

企業



企画・活動概要

NS物流研究会が主催する「第11回 物流関連ゼミ学生による研究発表会」に参加。

NS物流研究会の紹介については、以下、HPより引用。

NS物流研究会は平成17年度と18年度に国土交通省自動車交通局貨物課が主催した「若手トラック経営者等によるトラック事業の明るい未来を切り開く方策等を検討する研究会」に参加したメンバーが、その後、自主的な研究会として設立した組織です。

当研究会の名称のNSはNextのN、StageのSです。会長は樋口恵一(川崎陸送株式会社代表取締役)、副会長は中田純一(株式会社中田商事代表取締役)で、事務局は東京都港区の川崎陸送本社内に置いております。

当研究会では、物流市場の変化と将来予測、トラック運送業界を取り巻く環境の変化、トラック運送業界の現状と企業経営のあり方、その他、トラック運送企業の経営に関連する様々な研究をしています。

○第11回 物流関連ゼミ学生による研究発表会(2019年11月16日 於:東京海洋大学・越中島キャンパス)

11/16(土)の発表会へご参加頂き有難うございました。「第11回物流関連ゼミ学生による研究発表会」は、10大学1高専の11ゼミが発表、10時30分開会、11:00発表開始16:40発表終了という長時間の発表会となりました。お付き合い頂きました参加者の皆様に、心より御礼申し上げます。

今年は国や企業にむけた提言を加えることをルールに加えた結果、学生らしく型にはまらない提案が沢山あり、ご参加頂いた企業の方から、気付きの多い発表会だったとお声を頂きました。

この11年で発表テーマは、中国の物流、宅配、人手不足などさまざまなものができましたが、今年にはピッキング業務の改善、動画系SNSやe-ラーニングを活用した若年層の採用・教育、ギガワーカーを活用した宅配など、更に一歩踏み込んだテーマが見受けられました。

経緯・背景・目的

田中ゼミでは、「社会連携(共創)事業を行うこと」をゼミ募集時の一つの上限としている。このため、3年ゼミ生に教員からいくつかの社会共創事業テーマを提示し、その中からNS物流研究会が主催する「第11回 物流関連ゼミ学生による研究発表会」を選択。なお、5名のゼミ生が本プロジェクトに参加。

主に、トラック輸送を中心とする物流問題に焦点を当てて、自分達でテーマ設定を行い、物流企業の審査員を前に提案内容をプレゼンする大会である。

田中ゼミでは、昨今のドライバー不足を問題視し、1)ECの成長による配送量の増加→ドライバー不足、2)働き方改革による兼業・副業の増加、3)雇用側と働き手を結ぶマッチング技術(Uber)の進展、という社会情勢を踏まえ、「一般ドライバーと運送会社のマッチングアプリの提案」をテーマ設定し、調査分析を踏まえ、物流企業へのプレゼンを行った。

取り組む課題

テーマ:「一般ドライバーと運送会社のマッチングアプリの提案」

現在起こっているトラックドライバーの不足を解消するために一般の人をドライバーとして荷物の配送をしてもらう。そのために一般の人と運送業者をつなぐアプリを提案。

一般ドライバーと運送会社の
マッチングアプリの提案

配送マッチングアプリ

海戸400
あ 12-34

現行法で○

副業で時間の空いた人に
すぐ働ける

距離無向き

ラストマイル配送の
組織化

海戸300
い 56-78

現行法で×

法律で禁止されている

規制緩和の可能性がある

長距離向き

一般ドライバーの
移動を労働力

本学(学生)の役割

上記の取り組み課題に対して、①ドライバー不足を解消するためのアプリの開発、②開発したアプリの利用意向調査(アンケート調査)。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

- ・6-7月 物流に関する問題の調査
- ・9月 アプリの開発
- ・10月 アンケート調査、集計・解析
- ・11月 本番発表
- ・学生が成長>

学生自身が主体となって現実社会で問題となっているドライバー不足の問題を解決するために、アプリを開発し、アンケート調査によって利用ユーザーへの意向調査を実施し、実際の物流企業からコメントも頂戴した。他大学と競争することは良い刺激となった。



指導教員および関係者の紹介



商学部
マーケティング学科
准教授
<担当科目>
・流通システム論
・小売業態論
<専門分野>
・地域商業
・物流



NS物流研究会
会長 樋口 恵一 氏
川崎陸送(株)
代表取締役
<企業の特徴>
1924年(大正13年)創業、お菓子を中心に食品物流には自信があります。